

自由研究発表

ムハマディヤの組織構築

—本部資料（1921—1925）に基づいて—

Organizational Development of Muhammadiyah:  
Insight from the Archives of the Central Board (1921-1925)

小林寧子（南山大学）

KOBAYASHI Yasuko (Nanzan University, Research Associate)

《発表要旨》

インドネシアの2大ムスリム団体のひとつであるムハマディヤは、中部ジャワのジョクジャカルタのカウマンで誕生し、全国組織へと発展した。本報告では、近年閲覧が可能になった資料、ムハマディヤ本部の文書（1921年）と、本部会議議事録（1922年4月—1925年10月）をもとに、どのようにして組織は運営されたのかを明らかにする。

ムハマディヤは1912年11に公的に設立を宣言したが、当初は目立たない存在であった。1920年を転機として体系的組織活動を行う態勢が整い始めた。4つの部局（学校部、布教部、図書・出版部、社会福祉部）が自律的に活動し本部がそれを調整する役割を果たすことになった。同時に、ジョクジャカルタ理事州を越える活動が許可され、組織拡大へと踏み出した。設立者ダフランは1923年2月に没したが、傑出した指導者を頂かないまま集団指導体制で組織運営がなされることになった。3年に1度改選される本部委員は、1925年3月の年次総会では事前に投票と話し合いで候補者が選出され、さらにその中から会長が選ばれた。その後、この方法は定着する。

本部会議は年に30回を超え、密度の高い情報の交換・共有が行われた。この時期にムハマディヤが最も力を入れたのは支部設立であり、本部は地方のムハマディヤ・グループの学校運営の実績を確認して支部として承認した。支部となったあとも引き続き活動が継続しているかを確認、支援した。一方、常に資金は不足し、政府の助成金への依存は増していった。しかし、原住民問題顧問局とは連絡を取り合いながらも、政府に対する批判を怠らなかつた。植民地支配を正当化する行事への参加を拒み、特に政府の宗教への干渉を防ごうとした。

〈資料〉

- ・“Surat KH Ahmad Dahlan.” <https://sejarahmu.umy.ac.id/surat-k-h-ahmad-dahlan/>
- ・“Notulen HB’s Verg. April 1922- Moehammadijah D.G.”; “Notulen H.B. Vergadering 1924 Februari t/m Desember ‘24”; “Notulen H.B. Vergadering Moelai Januari 1925.”（インドネシア文書館所蔵）